



今年度は、 監査委員としての 活動をご報告します

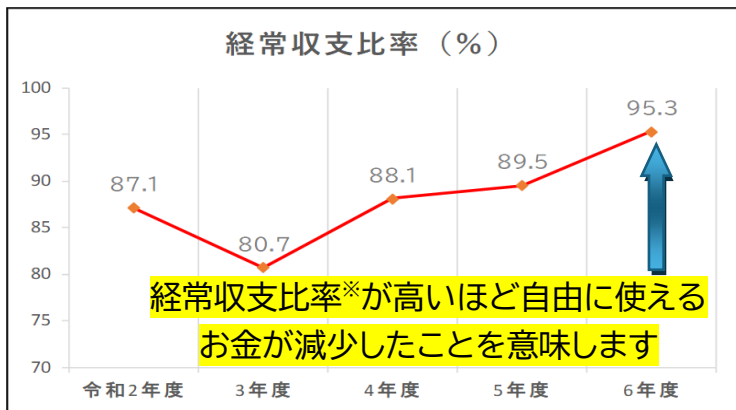


議会選出の監査委員に就任しております。
市政の健全性・適正性をチェックする役職です。
慣例により本年度は、**一般質問ができません**ので、
市民の皆様へ市財政等の情報をお届けします。



令和7年8月20日 山田義浩代表監査委員と
市原誠二監査委員が市長へ監査意見書を提出

尾張旭市の決算は黒字を確保 しかし、自由に使えるお金は減少



尾張旭市の令和6年度決算について、監査委員として市長へ意見書を提出しました。
歳入は約 472 億円、歳出は約 454 億円で、約 18 億円の黒字(前年度より約 2.6 億円の増加)。
我々監査委員として、「決算は法令に適合し正確」としつつも、「財政構造の硬直化が進んでおり、
今後は財源確保と効率的な予算執行の具体的取組みを進める必要がある」と意見をしました。

◆市民税の動き◆

個人市民税は定額減税の影響で約 2 億円減少しましたが、法人市民税は製造業などの業績回復で約 1.5 億円増加しました。市全体の税収は横ばいですが、企業収益に依存する部分が増えています。

◇国や県の交付金で支えられる市民生活◇

物価高騰対応関連の交付金や子育て関連の国庫補助金が増え、教育・福祉施策を下支えしました。
ただし、これらは国の制度に依存しており、市独自の財源確保が今後の課題です。

人件費など決まって出ていく費用の増加により自由
に使えるお金は減っています。

今後は、生活に直結する分野を守るために、将来を
見据えた財政運営となるようチェックしていきます。



経常収支比率とは？

毎年入ってくるお金のうち、決まって出ていくお金がどのぐらいの割合を占めているかを示す数字

予算案・条例改正などを 9月議会で審議 補正予算 約12億円の使い道を抜粋し解説します



- ① 公立陶生病院組合への負担金を増加 病院の安定した経営を支援 2億1400万円
なお、増額後の負担金総額は、瀬戸、長久手、尾張旭で30億円(本市負担割合は約21%)



物価高・人件費高騰の影響などにより厳しい経営状況。
とくに救急・小児科・周産期医療部門の採算が厳しい。

地域医療の最後の砦である陶生病院の支援は必要不可欠。



- ② 中学校部活動の地域移行 地域クラブ活動(バスケットボール、ダンスクラブ)を試行 約44万円
バスケットボールクラブ：10月から来年2月までの休日週一回
ダンスクラブ：10月から12月までの休日週一回



中学校部活動の受皿となる地域合同のバスケットボールクラブ。地元ボランティアや登録した先生等で運営されます。



- ③ 旭城の老朽化 屋根瓦が落下する危険があり仮設の安全対策を実施 350万円



旭城は、築40年以上が経過し利用者も低迷している。
建物の維持費は年間約400万円。
令和3年に出された個別施設計画の中では、屋根・屋上の健全性はAランクだっただけに、今回の屋根瓦の危険性は想定以上の傷み具合でショック。



◎ 日常活動



国への説明。「部活動地域移行」に対する尾張旭の対応への理解と協力を求めた。



柴田市長へ来年度の予算要望(29項目)をご説明し対応を要請した。